TOTO

施工説明書

ウォシュレット® 一体形便器（便器部）

品番：CS989BPX

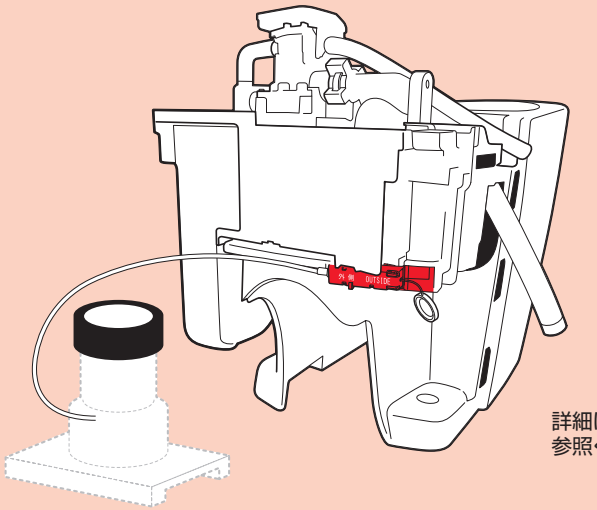
必ず実施 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
安全に関するご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3
取り付け前のご注意 ・・・・・・・・・・・・・・・ 3
同梱部品の確認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
給水位置の確認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
施工手順 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
各部のなまえと施工のポイント ・・・・・・・・・・ 5
取付方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

■工事内容に応じて指定のページをご参照ください。

◆“ウォシュレット”はTOTOの登録商標です。

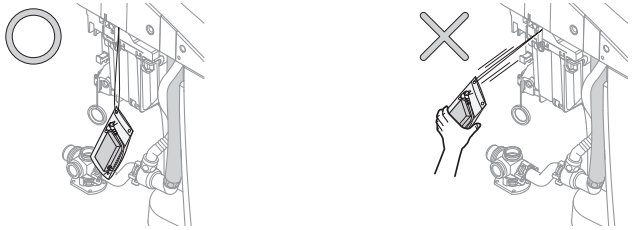
商品の機能が十分に発揮されるように、
この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

必ず実施　便器を排水ソケットに取り付ける前に手動レバーを取り付けてください。



詳細は13ページ 11 を参照ください。

停電時に使用するため電池ボックスは取り外さないでください。



※袋のヒモが切れてしまった場合は、もう一方の穴に通して取り付けてください。

安全に関するご注意（安全のために必ずお守りください）

施工の前に、この「安全に関するご注意」をよくお読みのうえ、正しくお取り付けください。
この説明書では、商品を安全に正しくお取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

してはいけない「禁止」内容です。 左図は、「禁止」を示します。	必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。

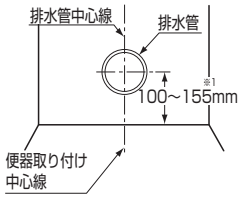
⚠注意　この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

禁止	**便器に強い力や衝撃を与えない** 便器が破損してけがをしたり、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
	給水フレキホースを無理に折り曲げたり、たばこの火やカッターなどで、傷をつけない 給水フレキホースが破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
	止水栓を開けたままで、給水フィルターを外さない 止水栓を閉めないと水が噴き出して、家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。
	浴室など湿気の多い場所に設置しない 火災、感電、発熱、ショートの原因になります。
必ず実行	**設置工事に使用する部品は必ず付属部品および指定部品を使用する** 正常な取り付けができなくなる可能性があります。
	設置工事は、この説明書に従って確実に行う 故障や水漏れの原因になります。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

取り付け前のご注意

（単位:mm）

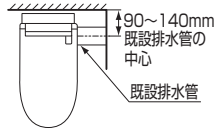


＜別途手配いただくもの＞

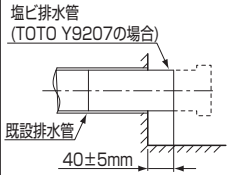
・左右抜きの場合
排水ジョイント(HP82S)、
排水エルボ(HP967)

・後ろ抜きの場合
排水ジョイント(HP82S)

［図1］＜左右抜きの場合＞



［図2］＜後ろ抜きの場合＞

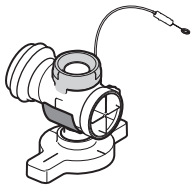


※本紙記載の品番は予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

●取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、ドアの開閉に支障がないことを確認してください。
●室内暖房付きの場合は温風吹き出し口から 150mm 以上の空間を確保してください。（壁が変色する原因となります）
●後ろ壁に床面から高さ 1400mm 以下の棚やキャビネットなどがあると、リモコンの受信条件が悪くなり、リモコンを操作しても本体が反応しないことがあります。（棚、収納キャビネットは下端 FL+1400mm以上を目安としてください）
●施工前に給水管取り出し位置が次頁「給水位置の確認」に含まれていることを確認してください。
また、既設排水管の中心から床面までの距離が 100～155mm(※1)であることを確認してください。所定の位置にない場合、商品が正しく取り付かないことがあります。
●左右抜きの場合［図 1 参照］
既設排水管の中心から後方壁面の距離が 90～140mm であることを確認してください。既設排水管の長さ調整は、排水エルボ（HP967）に同梱の位置決めシートの対応範囲にあわせてカットしてください。
※排水ジョイントとの接続代は 40mm 以上確保してください。
●後ろ抜きの場合［図 2 参照］
既設排水管を壁から 40mm 残してカットしてください。
●電源は交流 100V(50/60Hz)、定格消費電力は機種によって異なりますのでウォシュレット本体同梱の施工説明書をご確認ください。
●電源コードの長さは、約1mです。コンセントはこの長さに適した位置に設置しているか確認してください。
●給水圧力は最低必要水圧 (流動時)0.05MPa(10L/ 分)、最高水圧 (静止時)0.75MPa です。この圧力範囲でご使用ください。
●商品への通電および通水は取り付け作業をすべて終えてから行ってください。
●商品セット図は、専用カタログをご確認ください。

同梱部品の確認

※部品があるか、下記を参照して確認してください。　※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

便器本体	排水ソケット	固定片
※電池ボックス付き（1個）	 排水ソケット（1個） ※ゴムジョイント 手動レバー付き	固定片（1個） 接着ブロック（1個） 木ねじ（φ5×40:2本）
すっきりパネル すっきりパネル（左）（1個） すっきりパネル（右）（1個）		

給水金具	固定金具類	その他
止水栓（1個） 床継手+分岐金具（1個） ※便器同梱のフィルター付き止水栓を必ず取り付けてください。 ストレート管（1個） フランジ（1個） クイックファスナー（1個） 木ねじ（床継手用）（φ4×30:4本）	六角ボルト（2本） 止め金具（2個） ナット（2個） ワッシャー（2枚） 木ねじ（排水ソケット用）（φ5×50:4本）	施工説明書（1部） 開閉工具（1個） ※すっきりパネル裏側に貼り付けてあります。 位置決めシート（1枚）
給水ホース 給水ホース（1本）※パッキン付き		**背面カバー** （1個）

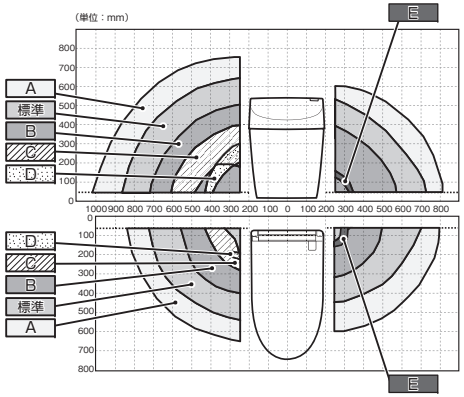
給水位置の確認

⚠注意

禁止　**給水位置の真下に電源コンセントを設置したり、給水ホースと電源プラグ・電源コンセントを接触させない**
結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因になります。

⚠注意

必ず実行　**給水管取り出し範囲に止水栓取り出し位置があることを確認する**
給水位置が適切でないと、止水栓が商品に干渉するおそれがあります。



※給水ホースが折れないように接続方向を調整してください。
給水ホースが折れると水が流れなくなったり、水漏れするおそれがあります。

給水位置	大便器用給水ホース品番	ホース長さ	対応範囲（左図参照）
標準	同梱の給水ホースをご使用ください	700mm	標準の範囲の最適長さです。
A	TN111L86	860mm	Aの範囲の最適長さです。
B	TN111L552	550mm	Bの範囲の最適長さです。
C	TN111L45	450mm	Cの範囲の最適長さです。
D	TN111L40	400mm	Dの範囲の最適長さです。
E	TN111L37	370mm	Eの範囲の最適長さです。

●給水ホースの到達範囲を示したものです。ホース長さ、給水位置によってはホースが大きくたるむ場合があります。
●TN111L37は長さ調整用の継手を使用しない場合の範囲を示しています。
一前提条件一
■左壁、左床給水の場合、床継手は標準位置に取り付けとなります。
■右壁、右床給水の場合、床継手を位置決めシートの床継手取付範囲の右側寄せで取り付けとなります。
※標準ホース（L=700）右壁・右床給水の場合も上記と同様の位置に取り付けとなります。

施工手順

この施工手順に従って便器・ウォシュレットを正しく取り付けてください。
（　　は本紙、□ はウォシュレットの施工説明書を参照ください）

【便器の施工手順】
1 既設排水管の確認 → 2 既設便器の取り外し → 3 止水栓の取り替え → 4 位置決めシートで固定穴位置をけがく → 5 既設排水管の長さ調整 → 6 床継手の取り付け → 7 分岐金具の取り付け → 8 給水ホースの接続 → 9 マルチ排水ソケットと既設排水管の接続 → 10 固定片・マルチ排水ソケットの取り付け → 11 手動レバーの取り付け → 12 便器の取り付け → 13 ウォシュレット本体の取り付け → 14 給水ホースの取り付け → 15 すっきりパネル・背面パネルの取り付け → 16 取り付け後の確認

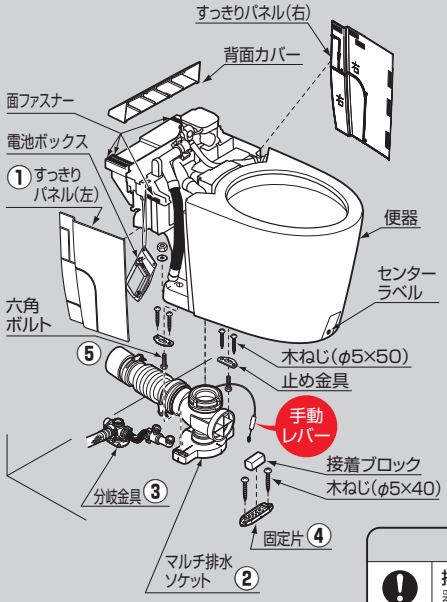
各部のなまえと施工のポイント

ポイント①
すっきりパネルの取り付けはウォシュレット本体を取り付けたあとに行うこと!

注意
便器同梱のフィルター付き止水栓を必ず取り付けてください。
ゴミかみによる止水、吐水不良になるおそれがあります。

ポイント②
①火や熱で加工したり、切ったりしないでください。
②溶剤や接着剤を塗布するとパッキンが溶けるおそれがあります。
③取り付けには必ず石けん水を使用してください。石けん水を使用しないとパッキンが切れるおそれがあります。
④取り付け後は必ず水溜試験を行い、水漏れしないことを確認してください。
⑤取り付け後、水漏れする場合はPシール（TOTO品番：TZ106A）をパッキンと排水口の境目に充てんしてください。

注意
電池ボックスは取り外さないでください。



ポイント③
便器を取り付ける際は、分岐金具を外向きに回転させておくこと!（➡12）
外側に回転させないと、便器本体取り付け時に、便器本体または分岐金具が破損するおそれがあります。

ポイント④
位置決めシートで固定片の位置を正しく出すこと!（➡4）

ポイント⑤
排水管は、必ず1／50以上の勾配を確保してください。

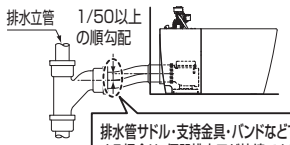
⚠注意

必ず実行　**排水管を逆勾配にしない**
器具の洗浄性能が低下したり、汚水が器具のトラップ内に逆流するおそれがあります。

排水口にパッキンを取り付けた際の状態について、以下を確認してください。

【パッキン側面図】

排水ソケットの高さ、排水ソケット口径の陶器公差・排水管の高さの施工誤差によっては、パッキンがはみ出すことがあります。水溜試験の結果、水漏れしていなければパッキンがはみ出していても品質的に問題はございません。



排水管サドル・支持金具・バンドなどで固定する場合は、便器排水口が接続できる高さに調整したあとに実施ください。固定の際は高さ調整した排水管を引っ張ったり、突き上げたりしないように注意ください。

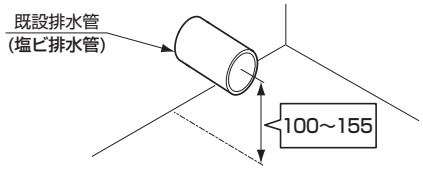
取付方法

1 既設排水管の確認

（単位:mm）

❶既設排水管が塩ビ排水管であることを確認する。

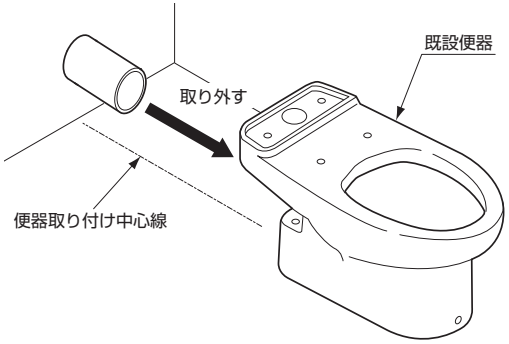
❷排水方向、排水心高さを確認する。
・既設排水心高さは、100～155mmであること
を確認してください。
・排水方向が左右抜きの場合、排水エルボ
（HP967）が必要となります。



2 既設便器の取り外し

❶既設便器を取り外す。

❷便器取り付け中心線をけがく。



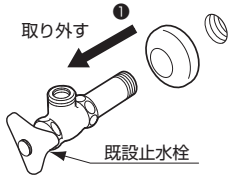
3 止水栓の取り替え

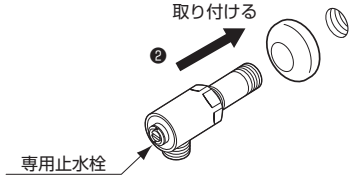
❶既設の止水栓を取り外す。

❷付属の専用止水栓（ストレート管）を
取り付ける。

※ねじ部にはシールテープを巻いて取り
付けてください。

※便器同梱のフィルター付き止水栓を必ず取り付けてください。
ゴミかみによる止水、吐水不良になるおそれがあります。





取付方法

4 位置決めシートで固定穴位置をけがく

左給水の場合

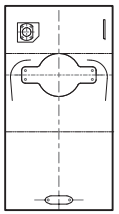
❶位置決めシートを後方壁面と便器取り付け中心線にあわせるように置く。

❷床継手取付穴位置、固定片取付穴位置、マルチ排水ソケット取付穴位置をけがく。

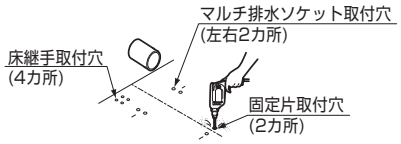
❸マルチ排水ソケット台座部の中心線をけがく。

＜けがく箇所＞
・床継手取付穴位置（4カ所）
・マルチ排水ソケット取付穴位置
（4カ所）
・固定片取付穴位置（2カ所）
・マルチ排水ソケット台座部の
中心線（2カ所）
・固定片中心線（2カ所）

※右図の○、合計14カ所を
けがいてください。



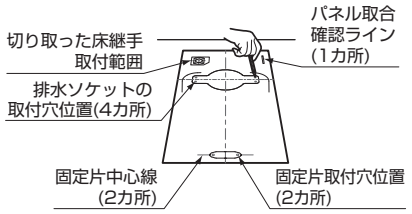
・床に木ねじをねじ込む前に、φ3程度の下穴をあける
と作業がしやすくなります。



右給水の場合

❶位置決めシートの床継手取付範囲をミシン目に
沿って切り取る。

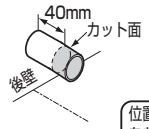
❷切り取った床継手取付範囲、パネル取合確認ライン、
排水ソケットおよび固定片の取付穴位置、固定片
中心線をけがく。



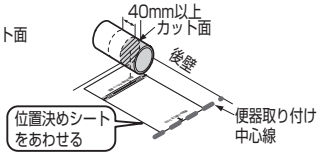
5 既設排水管の長さ調整

❶既設排水管をカットする。
・後ろ抜きの場合・・・後方壁面より40mmの長さにカット
・左右抜きの場合・・・排水エルボ同梱の位置決めシートにあわせ対応可能範囲内（320±10mm)にてカット
※排水ジョイントとの接続代は40mm以上確保してください。
※斜めにならないようにカットしてください。

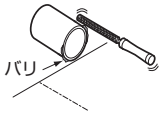
<後ろ抜きの場合>



<左右抜きの場合>



❷既設排水管切断面のバリを取り除く。



⚠注意

必ず実行

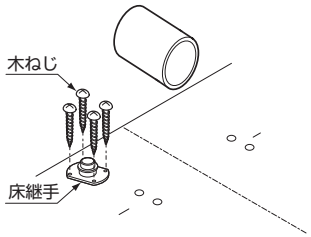
既設排水管切断面は、斜めにならないようカットする
斜めにカットしたまま施工すると、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

既設排水管切断面のバリなどは、必ず取り除く
バリなどが残ったまま施工すると、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

6 床継手の取り付け

❶位置決めシートを外す。

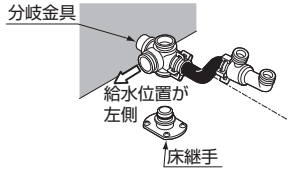
❷分岐金具から床継手を外し、床継手を所定の位置に木ねじで固定する。



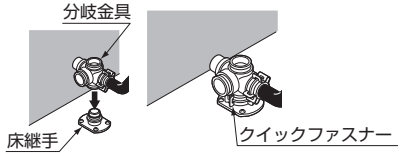
7 分岐金具の取り付け

左給水の場合

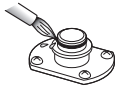
❶給水位置を確認し、分岐金具の向きをあわせる。
・**分岐金具の向きは、給水位置が左右どちらにあるかによって異なります。**
・結束バンドは切らないでください。



❷分岐金具を床継手に取り付け、クイックファスナーで固定する。



ポイント
床継手に分岐金具を取り付ける場合は、Oリング部分に水をつけると取り付けやすくなります。



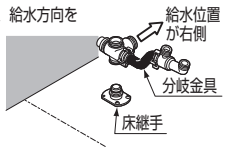
右給水の場合

⚠注意

必ず実行

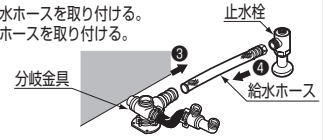
右給水の場合は、位置決めシートで、適切な位置に床継手の下穴をあける
床継手の位置が適切でない場合、給水ホースがパネルと干渉したり、床継手や給水管と接続できないおそれがあります。

❶分岐金具の向きを回転させ、給水方向を右に向ける。



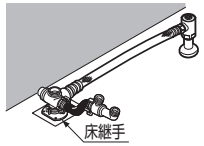
❷床継手に分岐金具を取り付け、クイックファスナーで固定する。

❸分岐金具と給水ホースを取り付ける。
❹止水栓に給水ホースを取り付ける。



❺位置決めシートでけがいた範囲内で床継手を仮置きする。

注意 このとき、床継手の下穴はまだあけないでください。

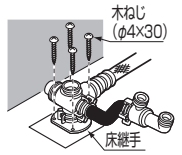


❻給水ホースとパネルの位置を確認する。
位置決めシートでけがいたパネル取合確認ラインにパネルをあわせる。

❼ホースとパネルが干渉しない位置に、位置決めシートでけがいた床継手取付範囲内で床継手を適切な位置に仮置きする。

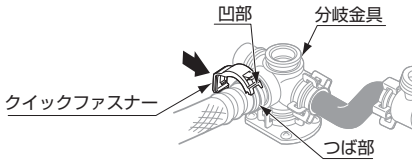
❽床継手を固定する。
・仮置き後、給水ホースとパネルが干渉しないことを再度確認し、床継手を木ねじで床(4 ヵ所)に固定する。
・床に木ねじをねじ込む前にφ3 程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。

ポイント
床継手に分岐金具を取り付ける場合は、Oリング部分に水をつけると取り付けやすくなります。

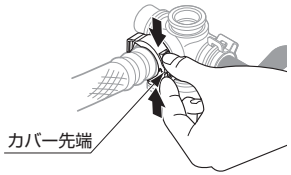


8 給水ホースの接続

❶分岐金具と給水ホースとのつば部に
クイックファスナーカバー先端の凹部
をあわせ、真っすぐ押し込む。

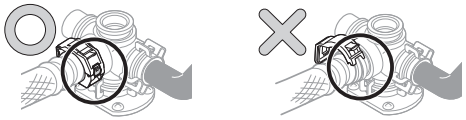


❷クイックファスナーは、カバーの先端を
「カチッ」と音がするまで、指先で確実に
閉める。



❸ロックを確実にかけ、カバーが開かないことを確認する。

❹クイックファスナーが確実に閉まっていることを目視などで確認する。



⚠注意

必ず実行

- **分岐金具と給水ホースはすき間ができないように確実に押し込む**
- **クイックファスナーは正しく取り付け、目視などで確認する**
- **クイックファスナーのカバーが閉まらない場合は、クイックファスナーが正しく接続されていない可能性があり、そのまま使用すると水漏れの原因になるので、必ずクイックファスナーを取り外して正しく接続し直す**

取り付けが不十分な場合、外れて水漏れし、家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

※オプションホースの接続については、オプション品同梱の施工説明書を確認してください。

9 マルチ排水ソケットと既設配水管の接続

⚠注意

必ず実行

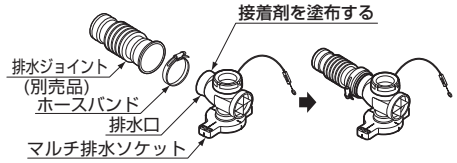
ホースバンドでの固定の際には、排水ジョイントにシワができないように締め付ける
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

後ろ抜きの場合

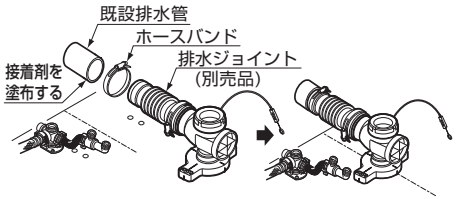
❶マルチ排水ソケットの排水口についているパッキンを取り外す。

❷マルチ排水ソケットの排水口に排水ジョイント（別売品：HP82S）を取り付け、接続部をホースバンドにて固定する。

・排水ジョイントは、TOTO製をお使いください。
・塩ビ用接着剤を塗布してください。

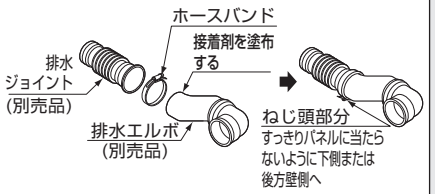


❸既設排水管に排水ジョイントを取り付け、接続部をホースバンドにて固定する。
・塩ビ用接着剤を塗布してください。



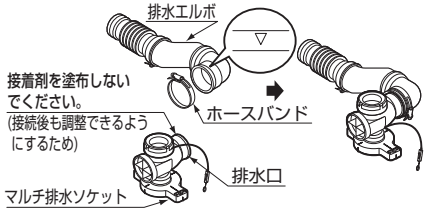
左右抜きの場合

❶排水エルボ（別売品：HP967）に、排水ジョイント（別売品：HP82S）を取り付け、接続部をホースバンドにて固定する。
・排水ジョイントは、TOTO 製をお使いください。
・塩ビ用接着剤を塗布してください。
・ホースバンドの固定は、ホースバンドのねじ頭部分がすっきりパネルに当たらないように、下側または後方壁側へ回しておいてください。

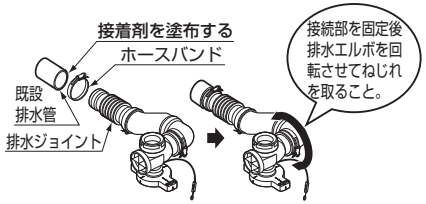


❷マルチ排水ソケットの排水口についているパッキンを取り外す。

❸マルチ排水ソケットの排水口に排水エルボを取り付け、接続部をホースバンドにて固定する。
・排水エルボは必ず突き当たるまで差し込んでください。
・排水エルボの▽マークが真上にくるようにしてください。



❹既設排水管に排水ジョイントを取り付け、接続部をホースバンドにて固定する。
・塩ビ用接着剤を塗布してください。



10 固定片・マルチ排水ソケットの取り付け

❶逆勾配にならない高さになるようにマルチ排水ソケットの台座部を回転させ、マルチ排水ソケットの稼動範囲で高さ調整する。
・マルチ排水ソケットの高さ稼動範囲は、120～155mmです。

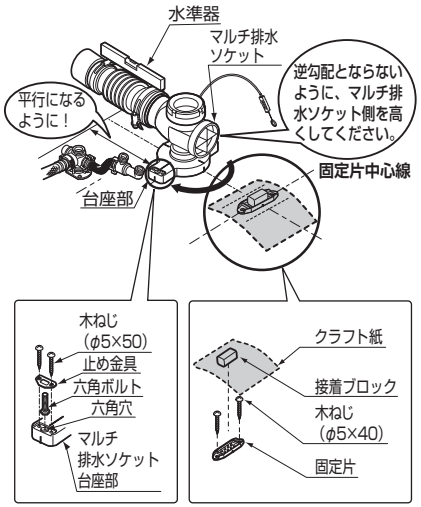
❷台座部が後方壁面に平行になるように調整して、便器の位置決めシートでけがいた位置に設置する。
・ 4 でけがいたマルチ排水ソケット台座部の中心線にあわせてください。

❸マルチ排水ソケット台座部（2ヵ所）に六角ボルトを立て、金具を通したうえで、木ねじで床（4ヵ所）に固定する。

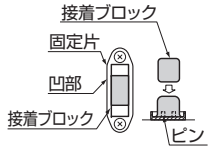
注意
・**取り付ける際、床と排水ソケットでワイヤーを挟まないようにご注意ください。**
・**排水ソケットの六角穴に、六角ボルトの頭部を確実にはめ込む。**
確実にはめ込まれていないと、便器がガタつくおそれがあります。

❹固定片を所定の位置に木ねじで床（2ヵ所）に固定する。

❺接着ブロックをクラフト紙に包んだ状態のまま固定片の凹部のピンに差し込み、指で軽く押す。
・印字のないツルツルの面を下向きにしてください。



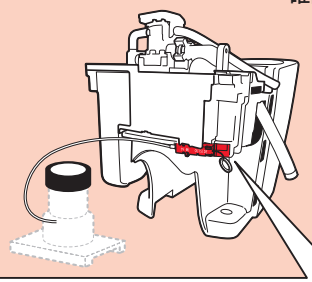
＜接着ブロックについて＞
・施工直後のやり直しの際は、接着ブロックの形を右図のように整えてください。
・接着ブロックの方向性は特にありません。
・気温が下がると接着ブロックが固くなることがあります。
このときは、20～30℃のぬるま湯の中に、包装袋ごと入れて柔らかくして使用してください。



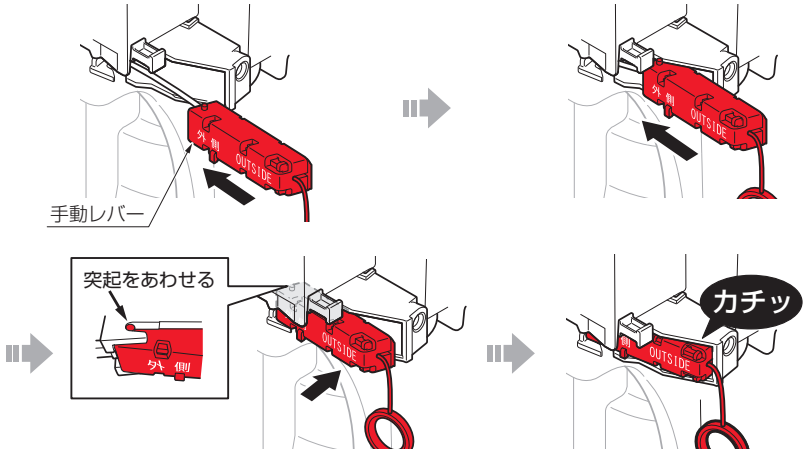
・詳細は、接着ブロック同梱の注意書を参照してください。

11 手動レバーの取り付け ➡ 12 便器の取り付け

施工手順を動画で確認できます。
※通信料がかかります。



手動レバーの向きを確認して横にスライドする

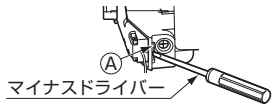


※取り付け後、手動レバーが外れないことを確認してください。

電子音が鳴り、ランプがすべて点滅している場合

電子音が鳴る
ランプがすべて点滅
➡ ①電源プラグを抜く ➡ ②11に従って手動レバーを取り付ける ➡ ③電源プラグを差し込む ➡ 電子音が止まり、ランプがすべて点滅していないことを確認する

＜手動レバーの取り外し＞
マイナスドライバーなどを図Ⓐに挿入し、ロックを解除して取り外してください。



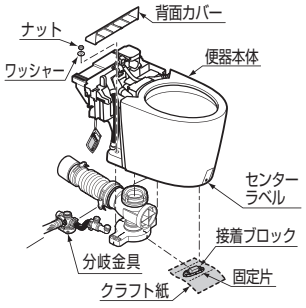
取付方法

12 便器の取り付け

注意
便器取り付け時、給水ホース、分岐金具を踏まないように注意してください。

❶分岐金具を外向きに回転させておく。
（便器に干渉しないように）

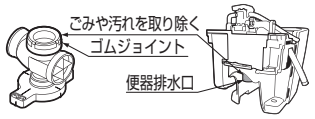
注意
便器を取り付ける際は、分岐金具を外向きに回転させておいてください。



外側に回転させないと、便器本体取り付け時に、便器本体または分岐金具が破損するおそれがあります。

分岐金具の回しかた

❷便器排水口および排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れを取り除く。



❸便器排水口を排水ソケットに差し込む。
・便器の持ちかたは右下図を参考にしてください。
・壁面に幅木があり便器が取り付けられない場合には、幅木をカットしてください。

ポイント
目安として **壁から10～15mm** を目指して真上から取り付けるとスムーズに入ります。
※壁に傷がつかないように差し込んでください。

❹センターラベルを基準に便器の位置を微調整する。

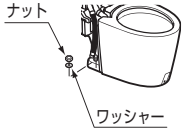
❺便器先端を少し持ち上げ、固定片の上のクラフト紙を引き抜く。

❻接着ブロックがつぶれるまで、便器をしっかりと押さえ、センターラベルをはがす。

注意
・センターラベルを基準に便器の位置を微調整してください。位置合わせ後、センターラベルをはがしてください。
・便器が床につくまでしっかり押さえてください。

❼便器の取付穴（2カ所）をナット、ワッシャーで固定する。

注意
・ナットを確実に締めてください。
・ナットを締め過ぎて便器を割らないように注意してください。



❽便器取り付け完了後、分岐金具を元の位置におこす。

手動レバーの取り回しかた

※手動レバーを引っ張ったり、便器に挟まないようにしてください。

便器の持ちかた

注意
機能部を持つと破損するおそれがあります。

取付方法

13 ウォシュレット本体の取り付け

※取付方法・操作方法は、ウォシュレット本体同梱の施工説明書を参照してください。

❶ウォシュレット本体を取り付ける。

❷便器に水が流れているときは、電源プラグをコンセントに差し込む。
・電気工事が未完了のときは、電池ボックスに乾電池を入れて、電池ボックス用コードをプラグ差し込み口に差し込んでください。

❸手動レバーの動作を確認する。
・ウォシュレット本体の試運転を行った後、動作確認を行ってください。

14 給水ホースの取り付け

止水栓に給水ホースを取り付ける。

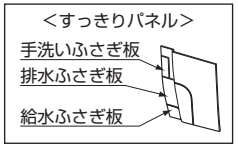
15 すっきりパネル・背面パネルの取り付け

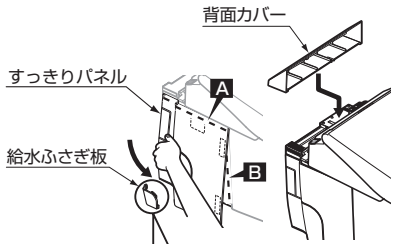
❶すっきりパネル（左または右）から、
必要に応じて { 排水ふさぎ板 / 手洗いふさぎ板 / 給水ふさぎ板 } ねじを外し、取り外す。

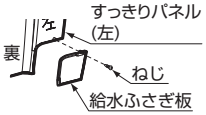
❷すっきりパネルを図Aと図B(点線)にあわせてすき間が目立たないように取り付ける。
・面ファスナー部（4 カ所 ）をしっかり押さえてすっきりパネルが外れないことを確認してください。

❸背面カバーを取り付ける。
（面ファスナー2カ所）

<すっきりパネル>







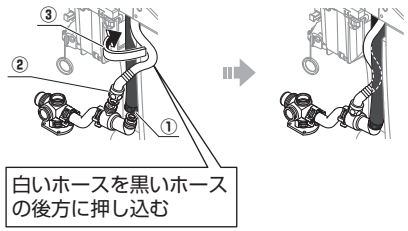
（給水ふさぎ板を外す場合）

※すっきりパネルにすき間や浮きがある場合は、右図を参考に給水ホースの接続方法を確認してください。
きちんと取り付けしない場合、すっきりパネルが外れるおそれがあります。詳細は、ウォシュレット本体同梱の施工説明書を参照してください。

<ふさぎ板について>
■ の部分を取り外してから取り付けてください。

	【左抜きの場合】	【右抜きの場合】	【後ろ抜きの場合】
左給水	(左) (ねじ3カ所)	(左) (ねじ1カ所) (右) (ねじ3カ所)	(左) (ねじ1カ所)
右給水	(左) (ねじ3カ所)	(右) (ねじ3カ所)	切り欠き不要

給水ホース接続方法



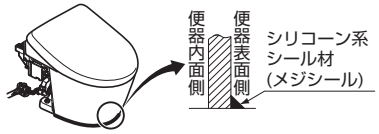
取付方法

16 取り付け後の確認

- 試運転（洗浄）後、便器ボウル内に配管の切粉など異物がないことを確認してください。もらいさびなど異物付着の原因となるおそれがあります。
- 陶器表面に傷などがないことを確認してください。陶器表面に金属類（時計のバンド、ベルトのバックルなど）が強く接触したり、こすれたりすると黒や銀色のスジ状の跡が付くことがあります。スジ状の跡が付いた場合は、当社製品「蛇口まわりのクリーナー」で除去してください。
- 施工したあとは、便器ボウル内に油などの見えない汚れ（コーキング剤、配管用接着剤など）の付く場合がありますので、トイレ用中性洗剤（研磨剤なし）を使って、必ず汚れをふき取ってください。便器ボウル面の洗い残りの原因となります。
- 陶器とすっきりパネルの間に目立ったすき間がないこと、浮き上がりがないことを確認してください。きちんと取り付けしない場合、すっきりパネルが外れるおそれがあります。

お客様に快適に使っていただくためのポイント

トイレ床材に防水加工がされていないフローリング(木質系)を使用すると、こぼれた小水や結露水などが便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。フローリング(木質系)を使用される場合は、便器ハカマ下部周囲に防カビ性のシリコーン系シール材(メジシール)を塗布することをおすすめいたします。



防振シート　HR800系(別売品)
防振シート用固定ねじHH04084(別売品)

集合住宅(RC構造)では、トイレの小便時の音が階下へひびくことがあります。
TOTOの防振シートは、床上排水タイプの腰掛便器と床の間に取り付けることで、床を通じて階下へ伝わる小便行為音(伝搬音)を効果的に低減しますのでご利用されることをおすすめいたします。

防振シートをご利用される際は、防振シート用固定ねじ(別売品)も必要となります。

防振シートの厚み分(5mm)、排水・壁給水接続位置が上がりますのでご注意ください。